

雑司ヶ谷鬼子母神の東の方の藪の中にあった百姓家の「爺が蕎麦」が藪そばの元祖。
「やぶそば」という名は土地のひとたちからつけられた俗称。
大きな竹藪に囲まれたそば屋と言う事から「やぶそば」と呼ばれる様になった。

寛政当時その盛名にあずかろうと、藪蕎麦を名乗る店が方々にあらわれた。その一つに深川藪の内に開店した藪蕎麦は、文化十二年(1815)版の番付「名物商人ひょうばん」にあげられたばかりでなく、幕末の江戸切絵図にもものるほどの有名店になった。



藪蕎麦系の元祖とされる、雑司ヶ谷鬼子母神前にあつた名物蕎麦屋「爺が蕎麦」の賑わう様子。『江戸名所百人一首』

その後、駒込千駄木町の団子坂藪下にあった蔦屋も藪蕎麦とも呼ばれて大いに繁盛した。その蔦屋が神田連雀町(現・神田淡路町二丁目)に支店を出していたが、明治十三年(1880)に砂場系の浅草中砂四代目堀田七兵衛が譲り受けた。七兵衛は経営の才に恵まれ、団子坂の本店(明治三十九年(1906)に廃業)なきあと藪の暖簾をあずかり、名実とに藪の本家として現在に至っている。(現在の神田藪蕎麦)

この本店のほか浅草並木藪、上野池之端藪があり、いわゆる藪御三家となっている。

== 藪の系図 ==

